

尾張自然観察会通信

2024年10号

発行10月1日



サルスベリ (ミソハギ科)

夏から秋にかけて白またはピンクの花が目立ちますが、一つの花をじっくり見ることは少ないのではないのでしょうか。

花の中心から細い軸が伸び縮れた花弁（画像のものは7枚ですが6枚のことが多い）がついていますが、何か非対称な構造になっています。雄蕊は長いものと短いものの2種類があります。しっかり観察してみましよう。

====目 次=====

当面の行事案内	1
定例観察会報告	2
善師野自然観察会（8月）	2
森林公園自然観察会（9月）	3
尾張北部自然観察会（9月）	4
木曾川下流自然観察会（9月）	5
日進岩藤川自然観察会（9月）	6
海上の森自然観察会（9月）	7

当 面 の 行 事 案 内

■定例観察会

日付	場所	催行時間	集合場所	担当	連絡先
10/5（土）	明德公園	9:30~12:00	明德公園西駐車場入り口表示板	辻	080-3073-6827
10/5（土）	尾張北部	9:30~14:00	さら・さくら第2駐車場	木村	080-3642-8304
10/6（日）	森林公園	9:30~12:00	森林公園案内所	出口	080-4309-2701
10/13（日）	木曾川下流	9:30~12:00	138タワー玄関前	齋竹	0587-37-7616
10/19（土）	海上の森	10:00~15:00	海上の森駐車場	内海	090-9912-3686
10/20（日）	日進岩藤川	9:30~12:30	日進市総合運動公園の駐車場	鬼頭	0561-38-2792
10/26（土）	善師野	9:30~15:00	善師野駅前（農道駐車不可）	平井	052-504-5223
11/2（土）	明德公園	9:30~12:00	明德公園西駐車場入り口表示板	辻	080-3073-6827
11/2（土）	尾張北部	9:30~14:00	さら・さくら第2駐車場	木村	080-3642-8304
11/3（日）	森林公園	10:00~15:00	森林公園案内所	出口	080-4309-2701

■協議会交流の日

10/19（土）	森林公園	10:00~15:00	森林公園案内所	浅井	090-3935-8192
----------	------	-------------	---------	----	---------------

通信に掲載したい事項やメールアドレス変更などがありましたら、下記担当者までお知らせください。

<編集担当> 齋竹善行

住所：〒482-0007 岩倉市大山寺元町12-3 メールアドレス：BZA03620@nifty.ne.jp

定例観察会報告

第342回 From 善師野 2024. 8. 24 (土) 晴 指導員4名 一般3名

8月は少しでも涼を求めて、七宗町の室兼林道を歩きました。8月にここを歩くのは初かもしれません。花たちには遅いとは思いましたが、残花があればラッキーと思いながら善師野出発。車を止めたら、まずはヒル下がりのジョニー、エアースロンパス、ストッキング、長靴とそれぞれヒル対策。林道には久しく雨が降っていないようで、ヒトツバやヒカゲツツジの葉は巻きあがり、いつも流れている崖の水も枯れていました。

期待していなかった崖の花ですが、イワタバコ、イワナンテンはまだ残っていました。ヤマジオウの花は終わっていましたが、オオキツネノカミソリが咲いていました。それよりも今日の見どころはガでした。道を歩くと次々に壁面からキンモンガやその他小さなガ飛び出してきました。濃緑色のミドリリングやオオトモエも見られました。恐れていたヒルは探さないといけないほどで、林道が乾燥していたこともあり大したことはありませんでした。ヒル対策が長靴のみの1名を除いては。 (平井)



森林公園からあなたから～しどういんつばや記～

森林公園観察会レポートNo.368

【日時】2024年9月1日9時30分～12時

【天候】晴【気温】最高33.0°最低22.9°(名古屋)

【参加者】指導員9名(出口・木村(絢)・小林・霜・浅井・岡嶋・石川・高橋征・高橋か)一般3名、 合計12名

日本中を混乱させた、常識破りの超迷走・超低速度の強い台風10号が終焉を迎えたのは当日正午であった。前日まで台風接近で開催が危ぶまれたが、観察会中は微風の晴天。汗を拭き拭きしながら歩いた。出発前に木村絢子さんから美しいポストカードの贈り物。今回頂いた2作品のうち、賞に輝いたウマノスズクサについて、種の中身と、キノコバエを虜にする奇妙な受粉システムの説明を受けた。出口さんからは「シラタマホシクサを顕微鏡で見よう、花の茎のねじれはいくつか」などのお話。霜さんからは、虫たちが命がけで受粉させるガガイモの花の恐怖のからくりについて、観察途中で現物をみながらミニ講習を受けた。

「アメリカフウの実が黒くなっていっぱい落ちてるね、でも枝には緑の若い実や半分だけ黒い実もどっさりついている、病気？熟した？」

「ツユムシが引きずられてる、この虫はなんだ？」「レンズで調べてみるわ、どうやらクビホソゴミムシみたい」

「トキンソウも花盛りだけど、小さすぎて虫メガネでも追えない、ケータイのズームで見よう」

「水生園のシキミが良く咲いてる、春咲きの花なのに。ここのシキミは向かいに植わってる四季桜の花に対抗して、シキシキミのつもりかな」...失礼いたしました。



他に観察したおもなものは以下のとおり(協力:小林)

【花】アメリカカガバ、ワケシビ、キネマゴ、ミズヒキ、ギンズヒキ、イコヅチ、アイヒ、ヤマノイ、ヤズノ、クサ、ツガネジ、スズビトギ、カガネウ、ナバシ、ミズギボウ、ウケ、ヤブタ、コサゴシウ、カイウズ、ウカズラ、コオトギリ、タキマ、ヌキマ

【実】ガガイ

画・出口(左)
木村絢(右)
記・高橋(か)



尾張北部自然観察会

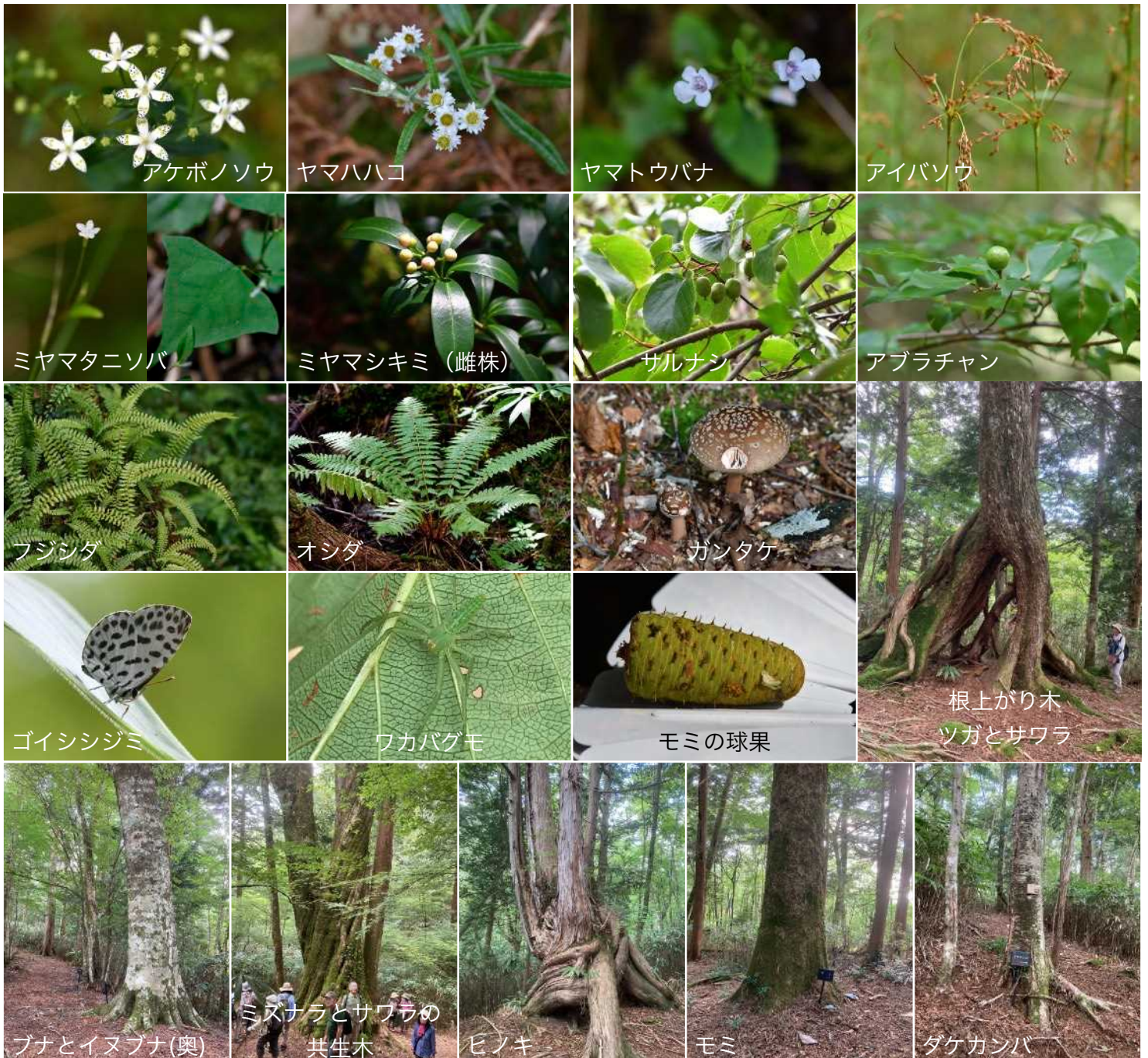
2024年9月7日(土) 晴れ

参加者 指導員(木村、太田、札幌、霜、角田、山田、後藤、後藤)8名 一般10名 計18名

上矢作町のアライダシ原生林を訪れました。天堤駐車場を出発し林内の溪流を何度か渡るうちに、林道脇では咲き始めたアケボノソウの群生が出迎えてくれました。標高1100mの自然観察教育林の出発点からは遊歩道に沿ってミズナラ、ヒノキ、サワラ、モミ等の大木、根上がり木、共生木を観察していきました。落ちているツガやコメツガやモミの球果の違いを確認し、ダケカンバの樹皮に触れたり、アブラチャンの葉の匂い、ミズメの樹皮の匂い、キハダの樹皮の苦みなども体感しました。ブナの群落では樹形だけでなく葉脈と鋸歯を見、イヌブナには葉裏の脈上に毛があることに注目しました。

多種類の針葉樹、広葉樹、山野草に出会え、下界の猛暑を忘れて自然林を満喫した観察会でした。(後藤)
[その他観察したもの]

ヤマキツネノボタン、ゲンノショウコ、テバコモミジガサ、チヂミザサ、クマイザサ、ツノハシバミ、ツタウルシ、ナツツバキ、コミネカエデ、コハウチワカエデ、ヒナウチワカエデ、コハクウンボク、オオバアサガラ、タンナサワフタギ、ケケンポナシ、サワシバ、クマシデ、イヌシデ、ミズキ、ハリギリ、オノエヤナギ等





木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2024年8月8日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般: 5名

指導員: 太田、安田、齋竹

テーマ 草原の生き物

台風 10 号が通過し、少しは涼しくなるかと期待しましたが、相変わらず暑さが続いています。ただ、虫の音がセミからコオロギに変わり、何となく秋らしさを感じられます。

テーマは草原の生き物ですが、川原がきれいに草刈りされ、草が残っているのは堤防周りに限られています。そこに咲く花(特にマメ科に注目)や飛び出すバッタの仲間などを見て回りました。

よく似たオオフタムグラとメリケンムグラの花の色や株の広がり具合などを、またネナシカズラとアメリカネナシカズラの茎の色や太さなどを比較して、違いを確認しました。堤防道路脇にはツルボが花茎を伸ばして最多いました。

バッタの仲間は堤防下ではショウリョウバッタやヒナバッタが、池の縁ではコバネイナゴが多く飛び出しました。好みの環境が違うようです。

シンジュの木の枝では、7月にもいたシンジュキノカワガの終齢幼虫とシタバニハゴロモが見られました。シンジュキノカワガは参加者の一人が幼虫を持ち帰って育てたら7月末に羽化し、その写真を見せてもらったので親しみが増しました。今回の幼虫はその時の一世代あとの幼虫と思われます。

マメ科の植物はヤハズソウの赤紫の花から始まり、メドハギ、ハギの仲間、アレチヌスビトハギ、アレチケツメイ(花は黄色)、ムラサキツメクサ、ノアズキ(花は黄色)、クズ、フジカンソウ、ヌスビトハギの10種が出現しました。ただ、今季はどういう訳かクズの花が少ないようで、広く覆っている堤防法面では花はなく、終わりがけにフェンスに絡まった株で数房の花が見られたただけでした。

ススキの葉をかき分けてみると、ナンバンギセルが咲いていました。ここでは昨年も見られました。

大野極楽寺公園では早咲きのヒガンバナが見られました。普通は彼岸の頃に咲く花ですがこのものはほぼ毎年8月から花が見られます。ネットで早咲きの品種があるか検索したところ、変種にコヒガンバナがあり、ヒガンバナより1か月程早く咲くということでした。花の形態はほぼ同じですが、2倍体で結実するこちうことで見分けられるようです。そのうち、結実しているかどうか確認してみたいと思います。(報告: 齋竹)

<その他観察できたもの>

花: プタクサ、オオプタクサ、ブタナ、ヒメジョオン、クイモ、イヌコウジュ、メマツヨイグサ、ミソハギ、センニンソウ、ツククサ、ヤブミョウガ、マメアサガオ、マルババルコウ、ヤブラン

虫: シオカラトンボ、ウスバキトンボ、アオモンイトトンボ、ナミアゲハ、モンシロチョウ、キタキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、セスジスズメ(幼) トノサマバッタ、クルマバッタ、オンブバッタ、ツチイナゴ(幼)、外来アミガサハゴロモ、アブラゼミ(声)、ツクツクボウシ(声)、エンマコオロギ(声)

鳥: トビ、キジバト、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス

その他: カナヘビ、アマガエル



(早咲きのヒガンバナを観察中)



延び出したツルボ



ノアズキの花: なぜ左右非対称



早咲きのコヒガンバナか?



ススキの根元にナンバンギセル



9時を回った頃には雨が止み、蒸し暑くなりました。始まる前の一時、空の様子を見ていたら、野球場の方からムクドリの鳴き声が聞こえ、群が西の方へ飛んでいきました。ツクツクボウシの声は町中では聞こえなくなっていますが、雑木林の広がる運動公園ではまだ盛んに鳴いています。そうはいつても彼らの季節は終わりに近く、歩いていると弱々しく羽ばたくものが見られました。途中、大清水湿地を見学しました。 (鬼頭)



ハグルマトモエ

幅が8センチくらいの大型の蛾です。ネムノキが増え、幼虫がこの葉を食べるので時折見かけるようになりました。前翅に左右対称の位置に渦のような巴模様があり、波線模様がきれいに並んでいます。



ムネアカハラビロカマキリ

最近建物内で時折見かけます。チョウセンカマキリの卵は建物の壁でも見られますが、ムネアカの卵は木の枝に付いているのしか見たことがありません。在来種ハラビロは少ないようです。



シモフリスズメ

ナンキンハゼの幹に手をかけたら、たまたまいた大きな蛾に触ってしまいました。横から見ると複眼が黒く、きりりとしまった表情に見えます。



ウラギンシジミ

7月半ばからクズの花を見ています。今年はクズの花が少なくなっています。ウラギンの卵を探したのですが空振りに終わりました。



ホソヘリカメムシ若齢幼虫

一見するとクロヤマアリ。でも触角が長く、アリの触角は折れていない。左のホソヘリカメムシの幼虫でした。



ツクツクボウシ



上は頭を右側から拡大しました。上から見ると左のようです。もうすぐ蟬の季節が終わります。

海上の森自然観察会

曇/晴 2024.9.21 一般 4名 会員 6名



タゴガエル アカガエル科



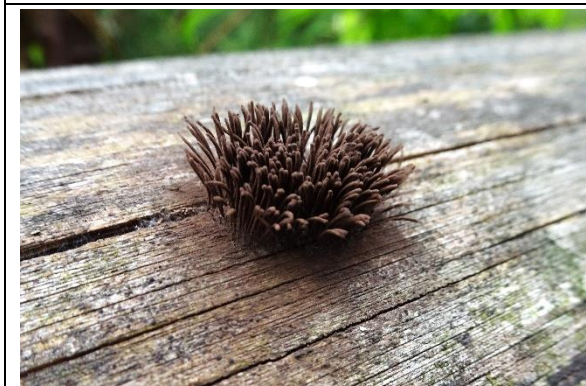
ヒメカマキリ ハナカマキリ科



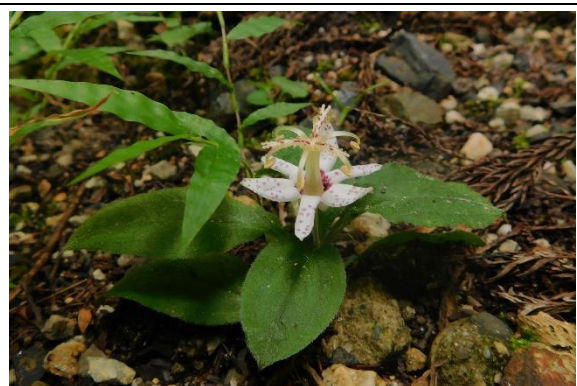
ノシメトンボ トンボ科



アオイトトンボ アオイトトンボ科



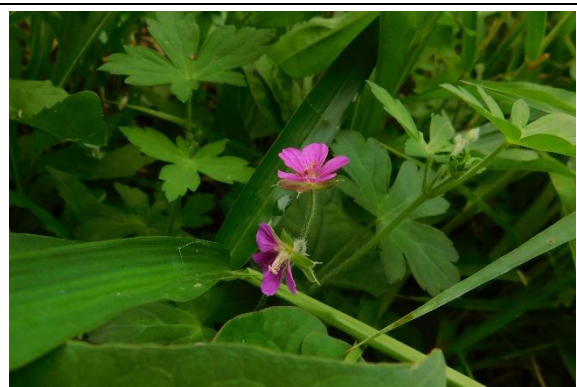
ムラサキホコリ 変形菌



ヤマジノホトトギス ユリ科



センニンソウ 実 キンボウゲ科



ゲンノショウコ フウロソウ科

今日も暑い一日です。天気予報では、明日低気圧と前線が南下し大気が入れ替わりそうです。初秋の生き物たち、ツクツクボウシは最後のセミの声でしょうか。バッタやトンボの観察ができ、草花の花もみられるようになりました。

(内海)